

受付番号※	※	※	※
	2	11	

平成 23 年度 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 構想調書の概要

法人番号	法人名	大学名				
341006	広島女学院	広島女学院大学				
研究観点	研究プロジェクト名					
大学の特色を活かした研究	障がい者のための高等教育支援開発研究					
1 研究目的・意義						
近年、高等教育機関の進学率の上昇にともない、多様なニーズをもった学生が入学するようになった。本学は、キリスト教主義に基づく人間教育を建学の精神にうたい、「隣人愛」の精神で、学生個々のニーズへの対応を心掛けてきたが、今後いっそうの展開を図るため、以下を目指す。1) 視覚障がい、聴覚障がい、発達障がい等をもった学生を積極的に受け入れるための研究開発を行い、そのための体制を整える。2) これまでも、聴覚・発達障がいをもった学生を受け入れることも多く、その都度、教職員が協議を重ねながら柔軟な学生支援を行ってきた。これらの経験を活かし、さらに情報保障関連支援システムを取り入れた研究所を設置し、学習支援・生活支援・就労支援、ならびに環境整備を図る。3) さらに、それらの取り組みや成果を活かして、ノーマライゼーションの視点から全学へのフィードバックを図り、大学教育のユニバーサルデザインの構築を図る。						
2 研究計画・研究方法						
① 研究体制						
本学は、平成24年4月を期して、リベラル・アーツ教育を柱とする全学改組を予定している(平成22年2月1日、「届出」により設置することが可能との通知を受けた)。「総合学生支援センター(Total Student Support Center/略称:TSSC)」は、その中核をなす包括的な組織であり、学生生活全体をきめ細かくサポートする。「障がい学生高等教育支援研究所」はTSSC内に置かれ、山下京子教授(臨床心理学)を研究所長とし、別記の5名の研究者によって構成される。同研究所は、視覚・聴覚・発達障がいをもった学生に対する教育力向上の手法開発を行い、さらにTSSCを通じて、その成果を、既存の初年次教育や専門教育の見直し、カリキュラムや教材の開発、教育環境の整備などに対してフィードバックする。						
② 年次計画						
1) 平成23年度: 改組と連携し、多様な障がいをもった学生への全学的な学習支援・生活支援・就労支援体制を確立するために、既存の建物の改造をおこない、「総合学生支援センター(TSSC)」棟を完成させ、研究を開始する。 2) 平成24年度: 大学教育の抜本的な刷新を図るため、TSSCとの連携を密にし、多様な障がいのある学生を含む全学生への個別サポート対応システムを構築すると同時に、履修モデルの構築、課外活動を含む学生ニーズへの対応のためコンシェルジュを稼働させ、障がいをもった学生への個別サポートを開始する。具体的には、視覚障がい学生のために文字を音声化するシステム、聴覚障がい学生用に音声認識システムを介して教員の音声文字化するシステム、発達障がい学生のために授業アーカイブを導入し、e-learning反復・復習システムなどの開発をおこなう。 3) 平成25年度: TSSCを通じて、運用体制の充実を図りながら、多様な障がいをもった学生の就労支援をおこなう。						
③ 私学助成補助金申請予定額 (単位:千円)						
	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	合 計
施設・装置費	50,000			—	—	50,000
設 備 費	117,423	8,678	656	—	—	126,757
研 究 費	3,900	5,550	3,700			13,150
合 計	171,323	14,228	4,356	0	0	189,907
※上記については自動計算ですが、「様式Ⅱ-4」、「様式Ⅱ-5」、「様式Ⅱ-6」の補助金申請予定額(事業計画額ではない)の該当欄を集計していますので、計算結果が正しいかどうか必ず確認してください。						
3 研究により期待される効果						
1. キリスト教主義に基づいた教育における「隣人愛」に基づく、地域社会と障がいをもった学生との共生の在り方を提起する。 2. 「総合学生支援センター(TSSC)」を核にすることによって、大学教育におけるユニバーサルデザインの追求と、ノーマライゼーションの在り方を架橋する。 3. 障がいをもった学生に対する学習支援・生活支援・就労支援を可能にするシステムの開発を通じて、定型発達の学生支援のためのより深遠なシステム開発に資する。 4. 障がいをもった学生の学習を具体的に支援することを通じて、当該学生のキャリア形成を実質化する。						

・本紙1枚にまとめてください。(プロジェクトの中に複数のテーマを設ける場合でも同様)

※印欄は文部科学省で使用するため記入しないでください。

受付番号※	※	※	※
	2	11	

平成 23 年度 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 構想調書

法人番号	法人名	大学名		
341006	広島女学院	広島女学院大学		
研究プロジェクト名				
障がい者のための高等教育支援開発研究				
テーマ番号	研究テーマ名			
1	障がい者のための高等教育支援開発研究			
2				
3				
4				
5				
研究プロジェクトの主体となる研究組織名	研究代表者			研究プロジェクトに係る研究者数
	所属	職名	氏名	
総合学生支援センター/障がい学生高等教育支援研究所	文学部	教授	山下京子	6名
研究観点	研究期間	研究費のみ	希望審査分野	
大学の特色を活かした研究	3年	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 人文・社会系	<input type="checkbox"/> 理工・情報系 <input type="checkbox"/> 生物・医歯系
1 研究プロジェクトの位置付け(研究プロジェクトの大学における位置付けや基盤形成への役割等)				
<p>多様な障がいを抱える学生の障がい、その学生の個性ととらえることは、まわりの学生の人間性を確立するうえでも有意義なことである。多様な障がいを持った学生を積極的に受け入れるにあたって障壁となっている課題を調査・研究するため、「総合学生支援センター」内に「障がい学生高等教育支援研究所」を設置する。さらに、同研究所では、健常者と障がい者のへだてのない受け入れを可能にする、ノーマライゼーションのための手段・方法の構築、教材の開発、環境の整備に関する研究を行う。</p>				
2 研究プロジェクトの意義・目的(研究プロジェクトの学術的な特色や意義等)				
<p>1. ノーマライゼーション: 本学はキリスト教教育を基盤とした人間教育を目的としている。「愛・平等・平和」を理解していくために、すべての学生に対して区別のない教育支援を行う。</p> <p>2. ユニバーサル・デザイン: 総合学生サポートシステムを構築し、学生カルテ、学生ポートフォリオとカリキュラムシステムを連動させ、すべての学生に対するオーダーメイドの履修指導を可能にする。これにより、ユニバーサル・デザインの在り方を提案する。</p> <p>3. 教育ネットワークの構築: 他の専門教育を行う大学(音楽大学など)との連携により、教養科目・専門科目の教育分担の可能性を探る。</p> <p>4. ノーマライゼーションのための環境整備: 多様な障がいを持った学生に対して、キャンパス内の安全な誘導環境を整え、モデルキャンパスを提案する。</p> <p>5. 成果の公開: 日本の高等教育はいまだに多様な障がいをもった学生を受け入れる基盤ができておらず、そのため本研究機関において教材開発、教育環境整備、教育力向上の手法開発等の研究を達成した後、これらを公開する。</p> <p>6. フィードバック: 欧米、北欧の障がい者に対する教育設備、指導方法、ノーマライゼーションの手法、フィールドワークの可能性、障がいに合わせた語学教育の在り方など、高等教育における総合的見直しを可能とする。</p> <p>7. システム構築(聴覚障がい学生): 聴覚障がい学生に対しては、音声認識システムと字幕作成システムを連動することにより、指導者の声を手元の画面で文字として読むことができるシステムを構築する。これにより、授業が耳の聞こえる学生と同じ状況を作ることが可能となる。</p> <p>8. システム構築(視覚障がい学生): 視覚障がいを持っている学生に対しては、文字判読音声化システムを充実し、点字だけではなく必要ところは音声で指示を行うシステムの構築をおこなう。これによって、視覚障がい者に対する高等教育の可能性を広げる。</p> <p>9. テレビ会議システム: 多地点接続テレビ会議システム(Multi point Control Unit)を導入し、距離的にへだたりがある場所においても、同時に授業参加ができる仕組みを作る。障がいによっては自宅、病院にいても授業への参加を可能にする。</p>				

※印欄は文部科学省で使用するため記入しないでください。